

障がい者チャレンジトレーニング（職場短期実習）事業 好事例

（支援機関）障がい者就業・生活支援センター

1. 本人プロフィール	
障がい種類・程度	精神2級（統合失調症）

2. 職場情報	
業種	製造業

3. チャレンジトレーニングの実施			
日数	10日間	勤務時間	6時間／日
実習内容	部品組立		
支援機関による 職場への支援	<ul style="list-style-type: none"> 「一度に多くの指示ではなく一つずつ指示する」など、現場の従業員からの指示の出し方をできるだけ具体的に伝えた。 最初からフルタイムでは気持ちと体力が持続できないので、短時間の実習から始め、様子を見ながら徐々に長くしていくことを提案した。 通院日に休みを取れるように配慮をお願いした。 		
職場における 本人への配慮	<ul style="list-style-type: none"> 最初からフルタイムではなく、6時間から実習を始めて、仕事や環境に慣れてきた5日目あたりで実習時間を延ばした。 通院日に休みを取るよう伝えた。 		

4. 就職後の様子	
仕事内容	部品組立
職場における 本人への配慮	<ul style="list-style-type: none"> 一緒に働く現場の職員に、障がい特性について説明し、本人と職場の従業員との信頼関係の構築に心がけている。 ミスをした後、「どこに問題があったのか」「ミスをしないためにはどのように業務を進めるのか」を具体的にわかりやすく伝えるようにしている。 業務量について、本人の負担にならないよう、雇用後1年間は業務を固定して進めることとしている。
支援機関による 就職後の定着支援	<ul style="list-style-type: none"> 入社当初は、2週間に1回職場訪問し、企業、本人共に慣れてきた段階から訪問頻度を月1回に変更した。訪問時には、職場と支援機関とで本人の仕事の様子を確認している。
チャレンジ トレーニング後の 職場の意見	<ul style="list-style-type: none"> 業務量の調整や対応方法がわかったので職場でのコミュニケーションも特に問題は起きていない。本人も真面目に仕事に取り組んでいる。 通院以外は休んでいないので助かっている。